

那覇西ロータリークラブ

国際ローター 2580 地区 創立 1962 年 6 月 4 日

2018年6月6日

週報 第2522号



ロータリー:
変化をもたらす

プログラム案内

本日のプログラム

6月6日(水)

- ・点鐘・ロータリーソング
- 奉仕の理想

四つのテスト

- 1、真実かどうか ・会長報告・幹事報告
- 2、みんなに公平か ・卓話「運動について」
- 3、好意と友情を 理学療法士 西田 里 様
深めるか (同仁病院)
- 4、みんなの為に ・次回予定
なるかどうか 6月13日「民法改正について」
照屋俊幸会員

例会報告

第2639回(2018年5月30日)

出席報告

会員数	出席数	欠席数	出席率	前々回 訂正出席率
63名	36名	26名	58%	70%

欠席会員

名城、知念、名幸、安里(清)、高田、新里(順)
 新里(孝) 具志堅、上原、大城(博)、大嶺、福重
 久保、立津、城間(久)、三浦、當真、照屋(紀)
 奥野、本島、松宮、友塚、東、比嘉(芳)、宮城
 中村会員

Make Up

比嘉広明(5/14那覇南)
 小林 充(5/29那覇)
 糸洲 昇(5/29IAC 会長・幹事会)
 伊野波盛求(5/29那覇南)
 安里清榮(5/31那覇南)

ビジター 中家輝勝(浦添)

ニコニコ BOX

合計 ¥20,000 累計 ¥381,500

会 長 大嶺 香 副会長：具志堅一真・大城純市
 幹 事：比嘉広明

例会日 毎週水曜日 12時30分

例会場 ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー

事務局 那覇市松山 1-1-14 那覇共同ビル 6階

TEL: 861-7824 FAX: 861-7825



豊村良春 社会福祉法人ニライカナイと障がい施設
 鶴生の叢がお陰様で創立30周年を迎えま
 した。これからも宜しくお願い致します。
 比嘉広明 先週、先々週と2週続けて欠席しました。
 ごめんなさい

豊村良春 お誕生日祝いを頂いて

儀部頼人 //

江夏正浩 //

大城純市 皆勤バッジを頂いて

小林 充 //

豊村良春 //

会長報告(大城純市副会長)

◇この5月から沖縄少年友の会の会長に就くことにな
 りました。非行少年をどうやって立ち直らせるかを家
 庭裁判所と連携して支援するボランティア団体です。
 奉仕の精神をもって活動を行う点で、ロータリークラ
 ブと同じ精神を有しています。皆様のご協力・ご支援
 をよろしく申し上げます。

—ROTARYコーディネーターNEWS—

■なぜ、公共イメージの向上が必要か「ロータリーはこの14年
 間、会員が増えていない。クラブ数は15%増えているがバケツ
 から水が漏れている状態だ」これは私がこの3月に参加したエバ
 ンストンの研修であるモデレーターから聞いた言葉である。RI
 の危機感をひしひしと感じた。多額の費用をかけたアンケート
 の結果、ロータリーを知る人が意外と少なく、また知って
 いてもその活動についてほとんど知られていなかった。改めて今
 「ロータリーとは何か」「ほかの団体とどう違うのか」「なぜ
 ロータリーが必要なのか」が私たちロータリアンに一人ひとり

に問われている。

2011年にRIはロータリーの公共イメージ向上を目的とした数年間の取り組みを開始した。その目的はロータリーに対する理解を促進すること、また現会員や入会見込者、寄付者、戦略パートナーのモチベーションを高め行動を促すことである。近年、戦略計画の1つの「公共イメージと認知度の向上」について

「世界を変える行動人」キャンペーンが推進されている。

これは従来のロータリーと一般社会とのコミュニケーションのあり方を見直すもので長期的かつ「私たちが何者であるかを伝えるキャンペーン」である。具体的にはロータリーのアイデンティティ（ロータリーらしさ）を共通のビジュアルを用い、

様々な活動の行動に焦点を当て、かつ「物語」（ストーリー）に仕立て社会に発信しようというものである。クラブの活動・文化をストーリーにしてSNSなどで発信することで社会から共感を得る狙いがある。確かに人は物語から学び感動する。この点においてホームページの見直しも必要ではないか。そこに共感を呼ぶストーリーがあるか。写真1枚にも活動するロータリアンの姿が生き生きと映し出されているか。行動を呼びかけるものになっているかどうか。ご検討をお願いする次第である。第2ゾーンロータリー公共イメージコーディネーター柳生好春

これは従来のロータリーと一般社会とのコミュニケーションのあり方を見直すもので長期的かつ「私たちが何者であるかを伝えるキャンペーン」である。具体的にはロータリーのアイデンティティ（ロータリーらしさ）を共通のビジュアルを用い、様々な活動の行動に焦点を当て、かつ「物語」（ストーリー）に仕立て社会に発信しようというものである。クラブの活動・文化をストーリーにしてSNSなどで発信することで社会から共感を得る狙いがある。確かに人は物語から学び感動する。この点においてホームページの見直しも必要ではないか。そこに共感を呼ぶストーリーがあるか。写真1枚にも活動するロータリアンの姿が生き生きと映し出されているか。行動を呼びかけるものになっているかどうか。ご検討をお願いする次第である。第2ゾーンロータリー公共イメージコーディネーター柳生好春

皆勤バッチ贈呈



(左から大城純市、豊村良春、小林充、大濱俊男各会員)

誕生祝い



(左から、儀部頼人、豊村良春、江夏正浩各会員)

一般財団法人比国育英会バギオ基金より御礼状贈呈



(糸洲昇会員、大城純市副会長)

母の葬儀に際してはお世話になりました



(松島寛行会員)

8月5日のインターアクト年次総会へご参加を



(浦添RC青少年奉仕委員長 中家輝勝様)